

2023年1月の行事予定表

1	日	元旦・新年礼拝式(午前 11 時)	16	月	
2	月		17	火	
3	火		18	水	
4	水		19	木	祈禱会) //
5	木	祈禱会、月報印刷発送作業	20	金	
6	金		21	土	
7	土		22	日	礼拝式
8	日	礼拝式、聖餐式、教会役員会	23	月	
9	月	山陽・四国地区牧師会・地区協議会	24	火	
10	火		25	水	
11	水		26	木	祈禱会
12	木	祈禱会	27	金	
13	金		28	土	
14	土		29	日	礼拝式
15	日	礼拝式	30	月	
			31	火	

# 教会月報

2023年1月  
No.380

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

## 主に従う道

「いかに幸いなことか 神に逆らう者の計らいに従って  
歩まず 罪ある者の道にとどまらず 傲慢な者と共に座らず  
主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。」

旧約聖書・詩編 1 編 1-2 節

新年明けましておめでとうございます。本年も主イエス・キリスト  
にあって宜しくお願い申し上げます。

さて、冒頭の聖句の続きは 3 節-6 節に「その人は流れのほとりに植  
えられた木。ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることがない。  
その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

神に逆らう者はそうではない。彼は風に吹き飛ばされるもみ殻。  
神に逆らう者は裁きに堪えず 罪ある者は神に従う人の集いに堪えな  
い。神に従う人の道を主は知っていて下さる。神に逆らう者の道は滅  
びに至る。」とあります。

さて、新年のみならず、今後も続く年月を歩み続けなければならない  
いわたしたちですが、一喜一憂することなく、おおらかに生きたいの  
です。使徒パウロは、ガラテヤ書 2:19-20 節で「わたしは、キリスト  
と共に十字架につけられています。生きているのは、もはや私ではあ  
りません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」と告白し  
ています。国際政治学者で元聖学院学長の姜尚中教授が 4 日付け新聞  
紙上で語られました。信仰を得て幸福追求するのではなく、パウロの  
如く、洗礼により、新しい生が待ち受けた事実こそ重要であると。愛  
する子息を亡くされた時、キリスト教の信仰によって乗り越えられた  
と述懐されています。信仰は自分の利益のためだけではなく、自他の  
精神により生きることでしょう。イエス・キリストはまさに自他の精  
神を十字架であらわされたのです。各自に与えられた人生、生きてい  
てよかったという自己肯定感を得て新しい年を歩みたいと思います。

牧師 永松 清

## 1 月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

### 編集後記

- ◇ 2022 年もさまざまな事があった一年でしたが、月日の過ぎるのは早い  
ものでもう新たな年となります。
- ◇ 今号は祝されたクリスマス礼拝・祝会・24 日のキャンドルサービスの  
特集&S 姉の手記をお届けしました。
- ◇ 2023 年は、永松先生から新しい牧師先生にバトンタッチの年となる予  
定です。教会員一同、心を合わせて新たな一歩が進むよう祈ります。



24 日午後 7 時 30 分からのキャンドルサービスは 19 名(+赤ちゃん 1 名)の参加で行われました。寒波の中ではありますが、ろうそくだけの明かりの中で讚美し御言葉に耳を傾ける時間は、神様からの良き知らせを受け取る暖かな時間となりました。ご近所の方二家族とクリスタルコール、また故 F 姉のご長男もみえて、教会員以外で 11 名の方が参加されました。「教会のクリスマスに参加したかった」「子どもに見せてあげたかった」のが動機だそうです。

25 日のクリスマス礼拝は大人 26 名、中学生から幼児 7 名が集い、一緒に礼拝を献げました。久しぶりに賑やかな会堂となりました。Y.F.さん(小 5)のバイオリンの前奏から始まり(後奏もバイオリン)、ルカ 2 章 8 節～21 節からイエス様の誕生の意味を永松先生が、「クリスマスは、神様からのプレゼントです。イエス様は、わたしたちのつみ・よわさ・じぶんちゆうしんからすくいだしてくださいました(週報の説教要旨より)」と語られました。(週報の説教要旨も子供向けでした。)献金感謝は Y.Y.君とお母さんのペアでした。当日奏樂者がなく自動演奏器の予定でしたが、N.O.姉が参加しパイプオルガンの奏樂で礼拝出来たのも感謝でした。

礼拝後昼食なしで直ぐ、岡山理科大クリスタルコールの方達 8 名と 3 人の音楽ユニット「ハニー・ティー」をお迎えして開始されました。20 年 21 年と新型コロナウイルスの流行で祝会は自粛していましたので、久しぶりの開催となりました。「ハニー・ティー」の美しいハーモニーに子ども達も静かに聞き入り、大学生のコーラスでは若い声に元気をもらいました。当日ぶっつけ本番に近かった CS(日曜学校・教会学校)の朗読劇も教師の心配を見事に裏切って本番はしっかり朗読し、クリスマスストーリーを伝えることができました。また、例年のプレゼントの後に、サプライズで永松先生ご夫妻に感謝のプレゼントがありました。正味 1 時間の祝会でしたがあつという間の時間でした。



(写真上左)クリスマス祝会での全員集合！  
 (写真上中)キャンドルサービスの様子  
 (写真上右)Y.F.さんのバイオリン演奏  
 (写真左)ハニー・ティーの皆さんのコーラス場面  
 (写真右下)永松師ご夫妻にサンタさんからプレゼント



三野恵子姉によるクリスマスカードがデザインされて教会に提供されました。このカードを教会員がそれぞれ送り会ってクリスマスを祝いました。



## 永松先生・淑子先生ありがとうございます

## I.S.姉

私が初めて岡山教会で礼拝に出席したのは、2016年5月1日でした。北海道からの移住と開業を決心し、移住先を検討していた時です。移住先の条件で欠かせないことのひとつに、「日本ナザレン教団の教会があるところ」ということがありました。旅行などで教団以外の教会の礼拝をご一緒させていただいたりもしましたが、自分には札幌教会の幼稚園からお世話になった教会の空気感が、とてもしっかりと馴染んでいたからです。はじめて岡山教会にうかがった時、まだ岡山の移住が確定してはいなかったのですが、自分はいずれの教会生活をここで過ごすのだと、確信に近いものを感じたことをよく覚えています。永松先生のやわらかい笑顔に、もう何年もそこで過ごしてきたかのようななつかしさを感じました。室蘭教会にいらしたとうかがい、お会いしたことがあったかしらと思いましたが、

後で先生ご夫妻が室蘭教会にいらしたのは私が札幌教会に繋がる前のことだったと知り、あの時のなつかしさはなんだったのかと今も不思議です。岡山に来てからも、永松先生や淑子先生にいつもお心にかけていただき、なにかとバタバタ過ごす中でも、安心感があったのはお二人の祈りと支えがあったからです。岡山に来て間もなく6年目に入ろうとしています。先生のご引退を前に、お二人にお心にかけていただきながらスタートした岡山生活が、安心に満ちていたことを改めてお礼申し上げます。教会員としてもクリスチャンとしてもまだまだ欠けるものの多い日々ですが、つまづくことなく6年間を過ごしてこられたこと、永松先生と淑子先生との出会いをはじめ教会の皆様との出会いを神様が整えてくださったこと、心から感謝して、これからも教会生活を続けていきたいと思えます。

